

# News Release

平成26年5月12日  
N I T E ( ナイト )  
独立行政法人製品評価技術基盤機構

## 「化審法リスク評価ツール ( P R A S - N I T E ) 」 の公開について

N I T E ( ナイト ) [ 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 理事長 : 安井 至、本所 : 東京都渋谷区西原 ] は、事業者による化学物質の自主管理等の推進のため、工場での化学物質の製造量などから、周辺の大気などの環境濃度の推計やその影響を評価できる「化審法リスク評価ツール ( P R A S - N I T E <sup>※1</sup> ( プラス-ナイト ) ) 」を公開します。

1. P R A S - N I T E は、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 ( 化審法 ) に基づき国が実施する優先評価化学物質のリスク評価を支援するために N I T E が作成したツールです。P R A S - N I T E を用いることにより、優先評価化学物質に関するリスク評価の技術ガイダンス ( N I T E 案 ) <sup>※2</sup> に基づき、リスク評価 ( 一次 ) 評価 I 及び評価 II の一部 <sup>※3</sup> と同等の数式を用いた計算を行うことができます。
2. P R A S - N I T E には、国から公開されている 96 物質の物理化学的性状と有害性評価値や、用途ごとの排出係数、暴露量推計に用いる推計式とパラメータ等が含まれており、工場等における化学物質の使用状況 ( 製造 / 出荷量、用途、地域など ) を入力することで、次の項目について推計することができます。
  - ① 製造、調合、使用等の各段階において環境中へ排出される化学物質の量 ( 排出量 )
  - ② 環境 ( 大気、土壌、河川 ) に含まれる化学物質の濃度 ( 環境中濃度 )
  - ③ 環境や食物 ( 農作物、牛肉、乳製品 ) を経由して人や生物が化学物質にさらされる量 ( 暴露量 )
  - ④ 人や生物に対する化学物質の暴露量とその有害性との比較 ( リスク評価結果 )
3. P R A S - N I T E で得られた計算結果は、事業者における化学物質の自主管理のための判断や、行政、市民とのリスクコミュニケーションや外部への情報発信等に役立てることができます。

注) 本ツールは国の評価を再現するものではありません。

4. P R A S - N I T E は以下のウェブサイトからダウンロードできます。  
<http://www.safe.nite.go.jp/risk/pras-nite.html>

※1 : P R A S - N I T E : P A C S s \* R i s k A s s e s s m e n t S y s t e m の略

\* P A C S s : P r i o r i t y A s s e s s m e n t C h e m i c a l S u b s t a n c e s ( 優先評価化学物質 )

※2 : 化審法における優先評価化学物質に関するリスク評価の技術ガイダンス ( N I T E 案 ) 参照

<http://www.safe.nite.go.jp/risk/kasinn.html>

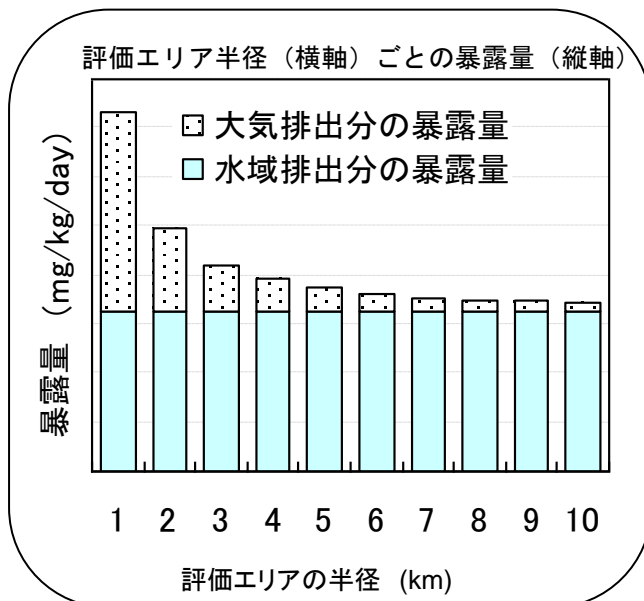
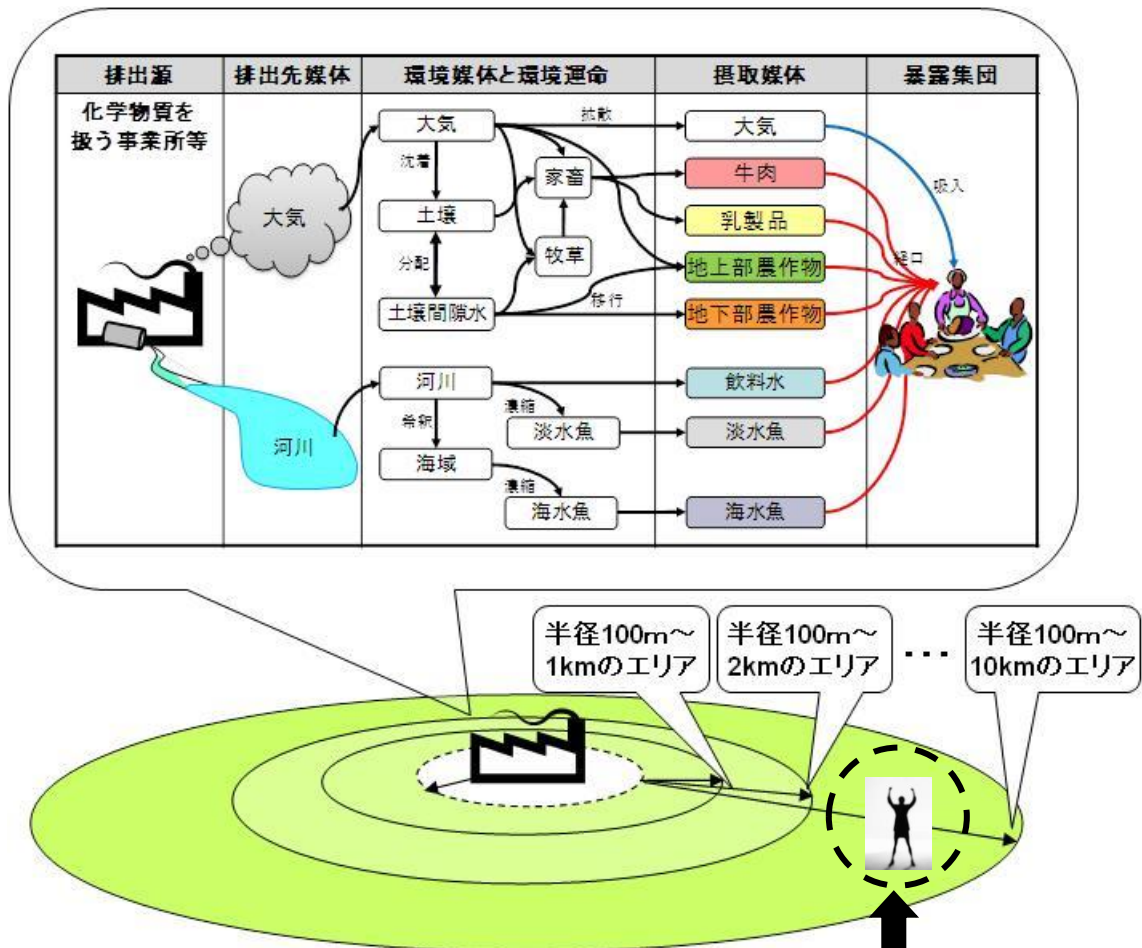
※3 : 本ツールで全ての評価が完結できるわけではありません。評価 II においては、他の暴露評価モデル ( G - C I E M S 等 ) を用いた評価等も併せて行われます。

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター 所長 木井 保夫  
リスク評価課 担当者 村田、中村  
電話 : 03-3468-4096 FAX : 03-3481-2900

## PRAS-NITEの活用例

化学物質を製造、使用している工場などから1～10kmの範囲で生活している住民が、大気や河川などに排出された化学物質の大気、土壌、水などにおける推計濃度や工場周辺の家畜や農作物中に取り込まれたと推計される量などから、大気や水、食べ物としての農作物や家畜から取り込むと推定される化学物質の量を1kmごとの範囲で推計できます。



周辺住民が取り込む化学物質の量が推計できます。

半径4.5kmで山手線の内側とほぼ同じ広さ、半径10kmで東京23区の約半分の広さになります。